

幼稚園・こども園の適正規模・適正配置について

(1) 適正規模の基準や考え方（前回資料の主要部分再掲）

①	幼稚園設置基準	・1学級の幼児数は、35人以下を原則とする。
②	令和4年度 大阪狭山市立幼稚園・こども園入園のご案内	・受付の結果、入園希望児が10名以下で、適切な集団保育の実施が困難になる場合は、当該園の募集を停止することがあります。
③	文科省委託「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」(H25.3)	・実地調査及び意識調査からの考察) 1学級に、3歳児でも20人前後、4、5歳児は21人以上30人くらいの集団が適切 ・教員が望む1学級の幼児数) 3歳児は20人以下、4、5歳児は20人以上、中でも5歳児は25人以上が望ましい
④	大阪狭山市新幼保連携推進計画(H28.7)	・幼稚園として存続する園の選択の基準(以下3点を総合的に判断) ・新入園児数 20人以上 ・地域の0～3歳平均児童数 67人 ・施設・敷地の規模や周辺の状況

(2) アンケートによる適正規模の考え方（抜粋）

○保育・教育施設を選ぶ基準：地域バランスへの配慮が求められている（P40）

- ・保護者全体では、「自宅や職場への近接性」を7割の方が重視。
- ・市立幼稚園の保護者では「小中学校との交流・連携」が4割と、他の施設の保護者に比べて高い。

○1クラスあたりの望ましい人数：年齢に応じた規模の設定が求められている（P43～）

- ・3歳児：全体では保護者・教職員とも「15～19人」が最多。
市立幼稚園では「10～19人」の範囲に保護者の9割・教職員の全数。
- ・4歳児：全体では保護者・教職員とも「20～24人」が最多。
市立幼稚園では「15～24人」の範囲に保護者の8割・教職員の全数。
- ・5歳児：全体では保護者・教職員とも「20～24人」が最多。
市立幼稚園では「15～29人」の範囲に保護者の8割・教職員の全数。

○1学年の望ましいクラス数：複数学級のメリットが一定評価されている（P45）

- ・保護者は、「2～3クラス程度はあった方が良い」が6割を占め、「多いほど良い」などを合わせると7割。
- ・教職員は、全学年で「2クラス」の回答が最も多く6～7割。「様々な個性や考え方を持つ友達とのかかわり」「クラス替えによる人間関係の変化」「異学年間の縦の交流」を重視。

○今後の市立幼稚園のあり方：適正規模の確保が求められている（P47）

- ・保護者全体では、「子ども園化」が4割、「統合や複合化」が4割（やむなしを含む）。
- ・教職員全体では、「統合や複合化」が7割（やむなしを含む）。

○複合化が考えられる機能：子育て支援サービス機能が多い（P48）

- ・保護者、教職員とも「子育て支援サービス機能」がそれぞれ7割、9割を占める。
- ・一方で、「他の施設と複合すべきでない」との回答もそれぞれ1割弱。

(3) 現在の園児数等

令和4年の児童数（3～5歳児）は1,621人で、ここ数年はおおむね横ばいとなっていますが、保育利用へのニーズの高まりもあり、教育利用を選ばれる園児数は2年間で140人減少しています。

令和4年の市立幼稚園の園児数は168人となっており、2年間で22人減少しています。また、半田幼稚園、東野幼稚園は、各学年1クラスとなっています。

※各年4月 1日現在	児童数 (3～5歳児)	園児数 (教育利用)	市立					私立	
			幼稚園	※下段の（ ）はクラス数			こども 園	幼稚園	こども 園
				東	半田	東野			
令和2年 (2020年)	1,678	862	190 (11)	100 (5)	46 (3)	44 (3)	39	352	281
令和3年 (2021年)	1,663	811	178 (11)	94 (5)	39 (3)	45 (3)	36	246	351
令和4年 (2022年)	1,621	722	168 (10)	80 (4)	48 (3)	40 (3)	31	193	330

(4) 想定される大阪狭山市の幼稚園の適正規模のイメージ

1クラスあたりの人数としての適正規模は、年齢により段階的な設定が望ましいと考えられます。クラス数は、複数学級への評価がみられることを踏まえ、複数学級を基本に考えます。

	1学年あたりのクラス数	1クラスあたりの人数
3歳児	2～3クラス	10～19人
4歳児	2～3クラス	15～24人
5歳児	2～3クラス	15～29人

(その他、必要な対策・方向性を考えていくために配慮すべき点)

- ・配置については、地域間のバランスやアクセス性への配慮が必要。
- ・こども園化の意見も多かったものの、幼児期の教育・保育の多様性を確保するため、市立幼稚園については統合・複合化により適正規模を維持していくことの丁寧な説明が必要。
- ・市立幼稚園の独自性として期待の大きい小学校との連携面は引き続き継承。